



30年3月期 第2四半期決算説明会

平成29年11月10日

株式会社セリア

JASDAQ

証券コード 2782

本日ご説明申し上げる今後の見通し等は、現在入手可能な情報から弊社の経営陣が判断したものでありますが、様々な要素により将来の事業を取り巻く環境が変動することも考えられます。

従いまして、将来の業績等につきましては本日ご説明申し上げます内容と大きく異なる可能性がございますことをご了承ください。

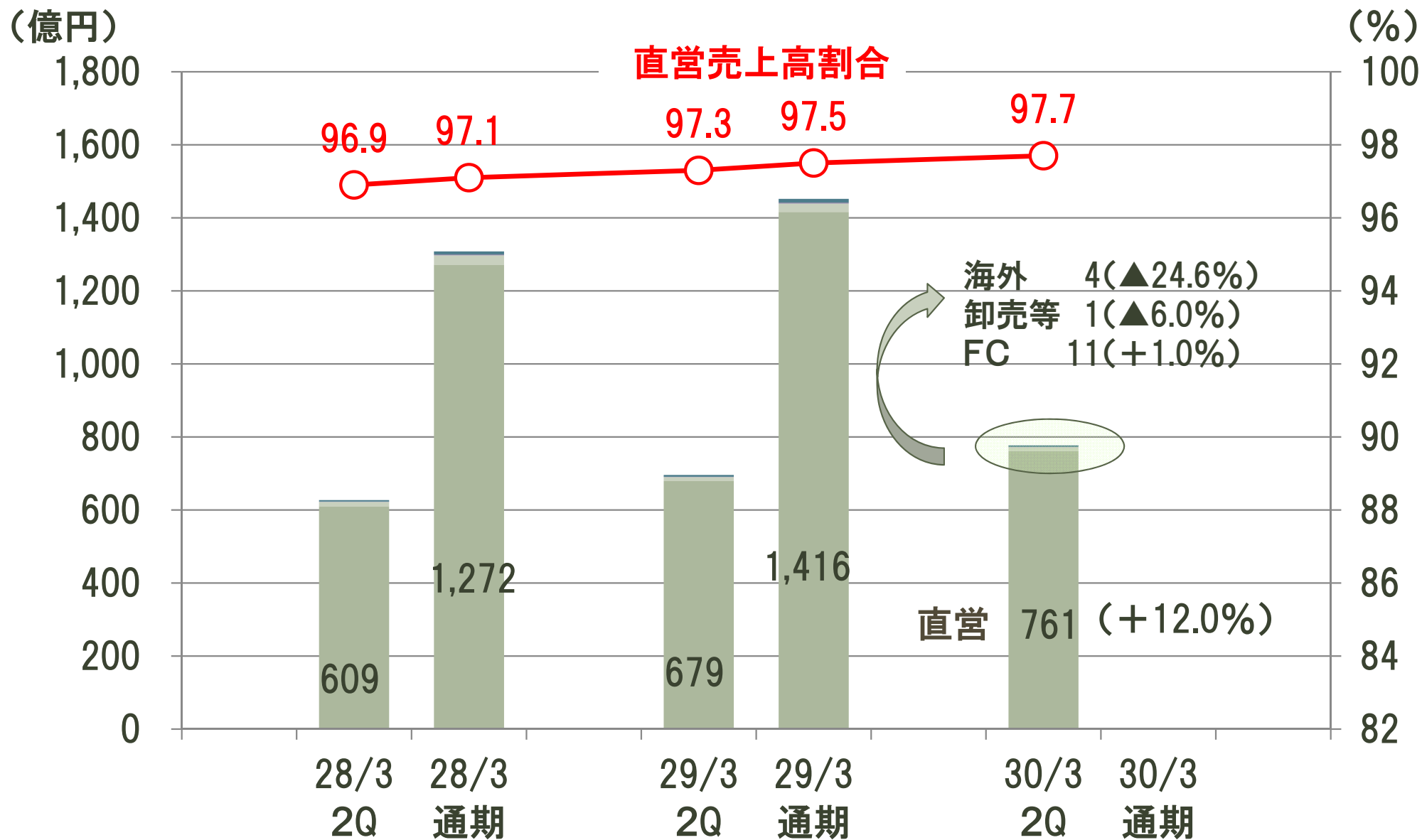
- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも上期として過去最高。
- 売上高営業利益率は、10.3%と前年同期(9.8%)を上回り、上期として過去最高。
- 売上総利益率は前年同期から0.4ポイント上昇。
(雑貨、直営店の販売構成比増加が寄与)
- 既存店売上高は前年同期比103.3%と想定を上回る。
(売上高販管費比率は前年同期から0.2ポイント改善)
- 直営店新店は、上期計画75に対し、65店舗で進捗
(下期ずれ)。

(単位:百万円)

	28年3月期 第2四半期	29年3月期 第2四半期	30年3月期 第2四半期
売上高	62,862 (+9.1%)	69,887 (+11.2%)	77,919 (+11.5%)
営業利益	5,178 (+6.0%)	6,819 (+31.7%)	8,062 (+18.2%)
経常利益	5,202 (+4.5%)	6,854 (+31.8%)	8,058 (+17.6%)
当期純利益	3,335 (+8.4%)	4,601 (+37.9%)	5,394 (+17.2%)

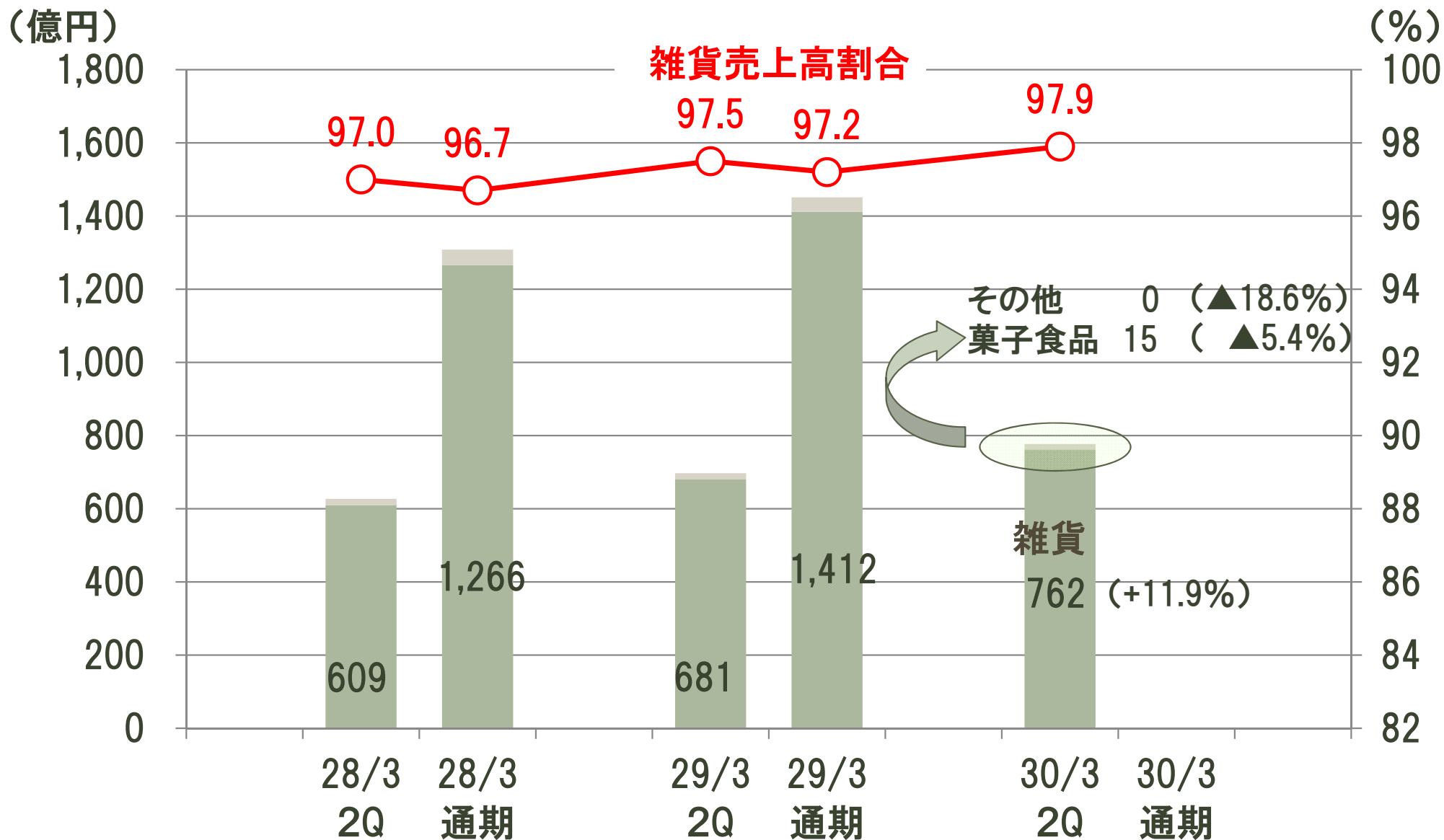
%表示は、対前年同四半期増減率

事業部門別売上高



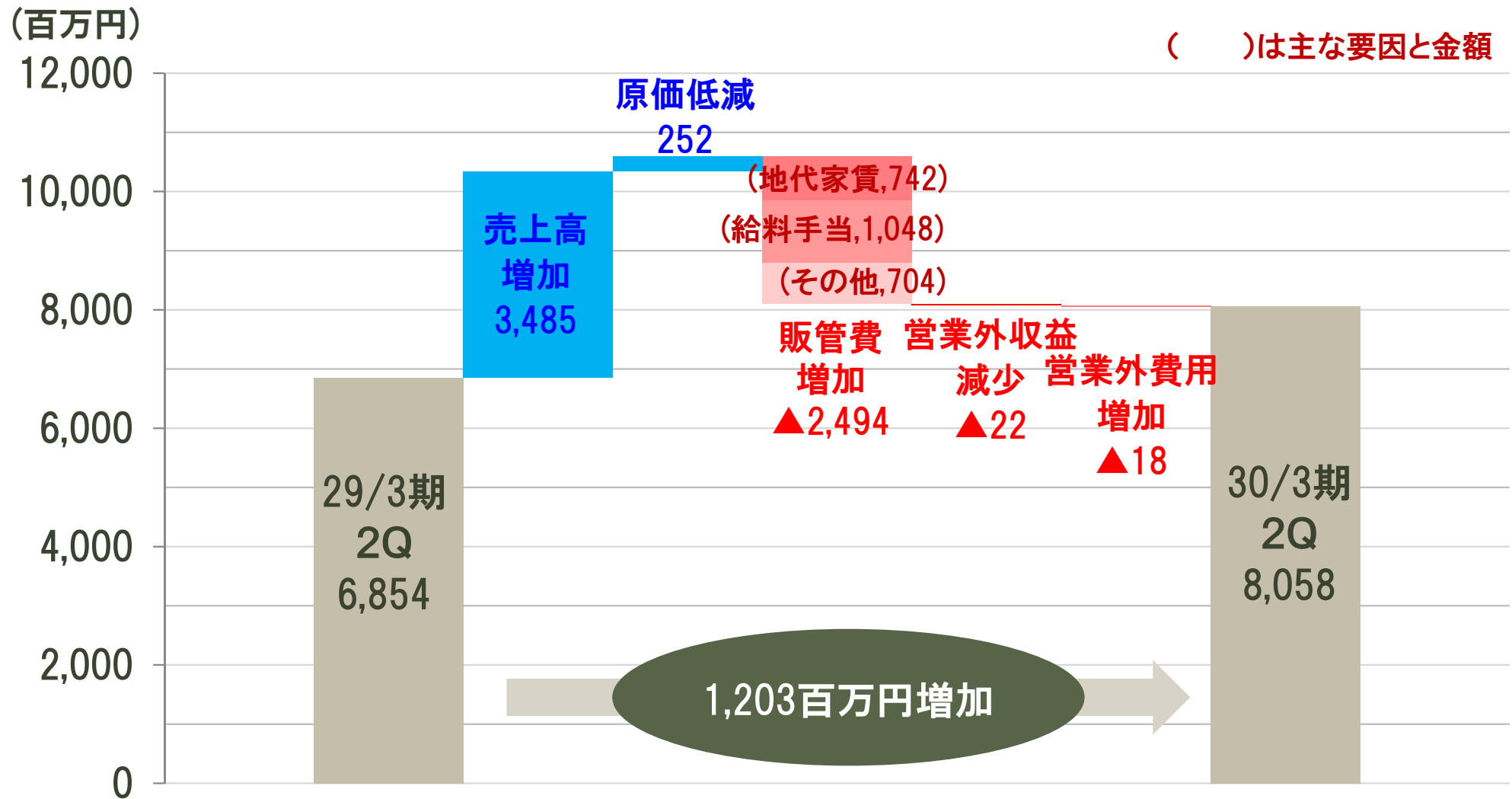
直営売上高割合は継続して増加(前年同期比+0.4ポイント)。

商品区分別売上高



雑貨売上高割合は継続して増加(前年同期比+0.4ポイント)。

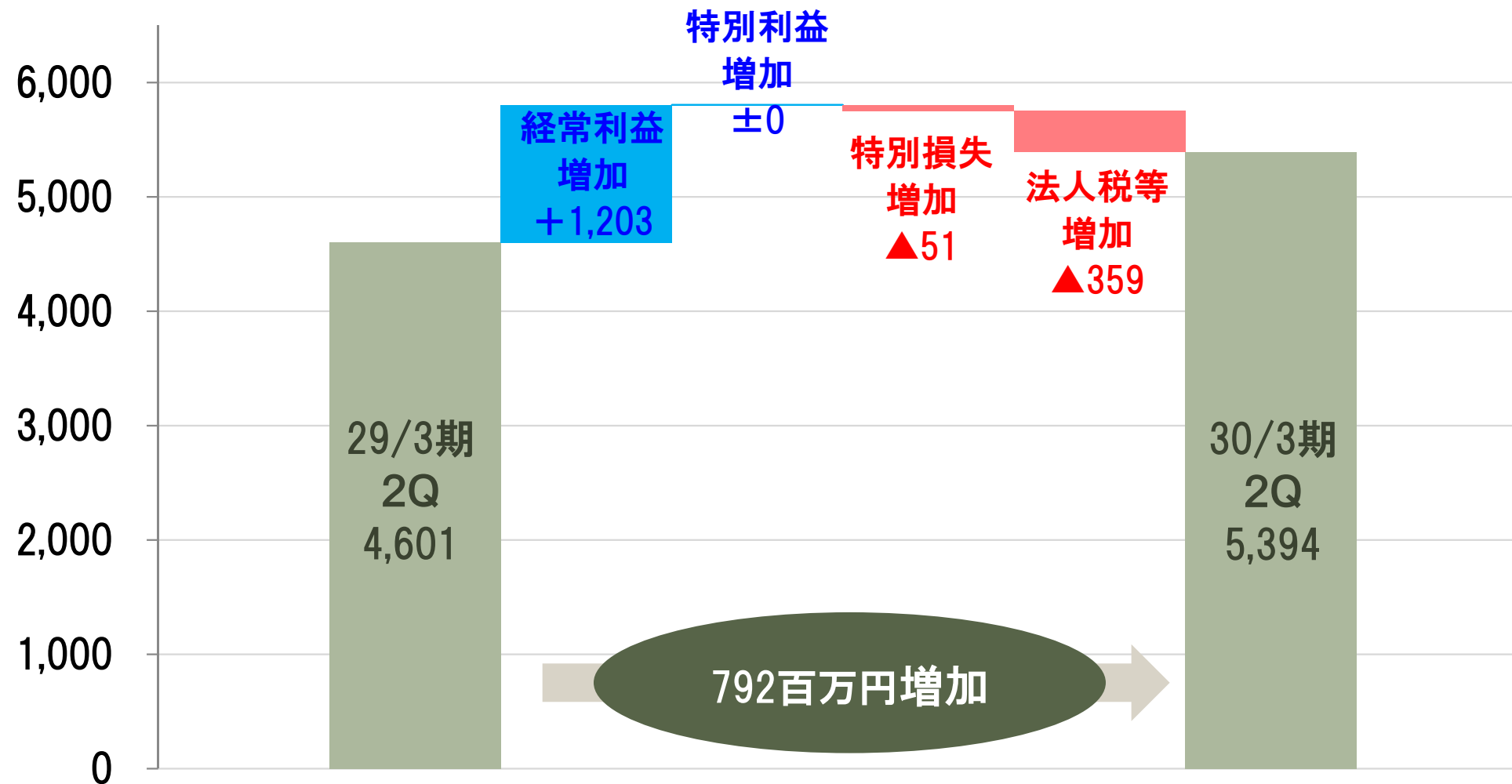
経常利益増減要因



販管費の増加は、店舗数増加に伴うものが中心。

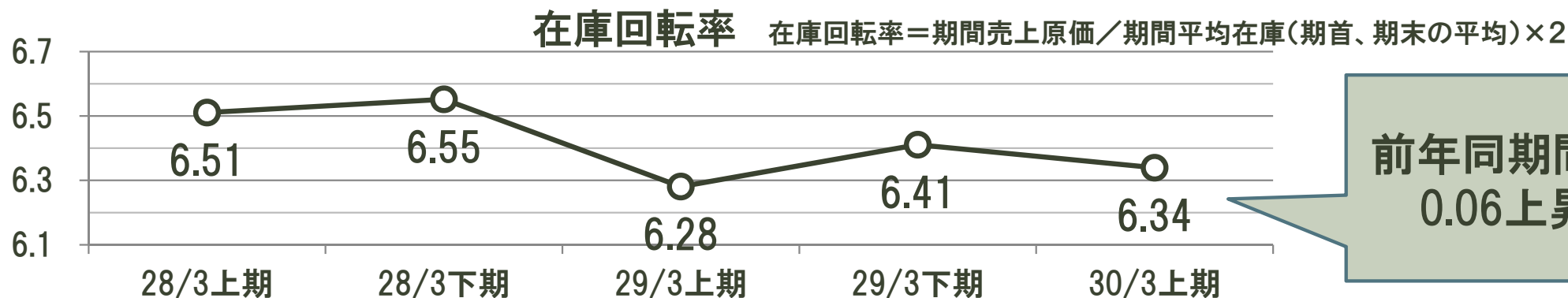
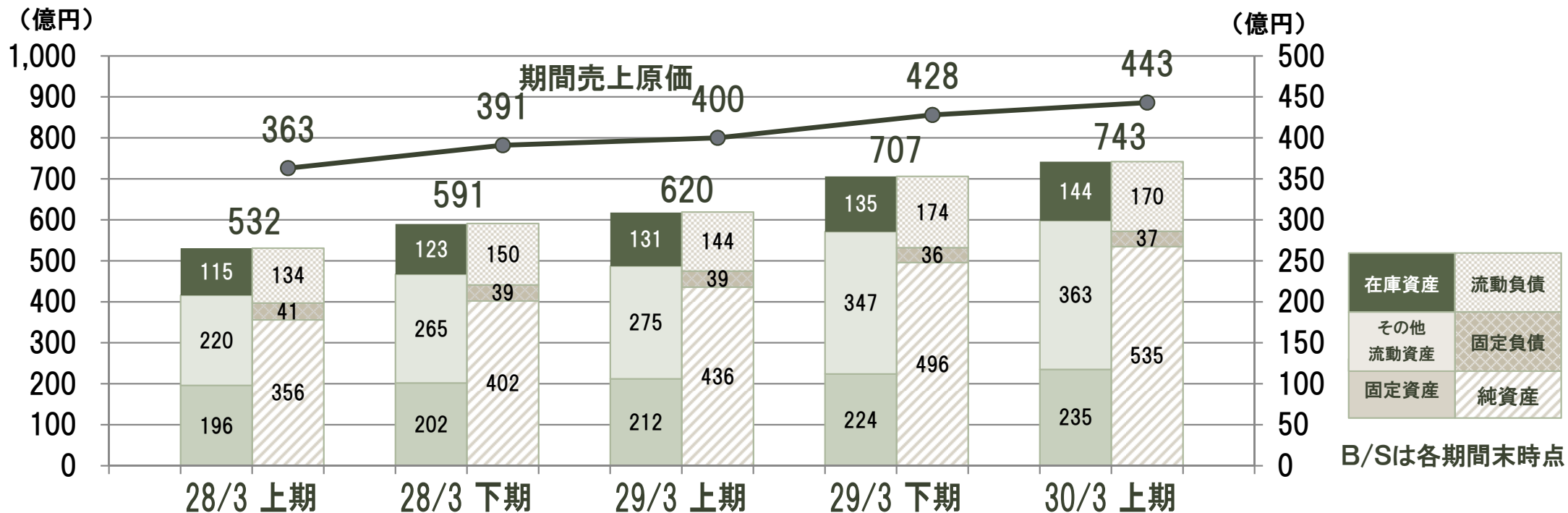
純利益増減要因

(百万円)



経常利益の増加以外は、特段の純利益要因なし。

在庫回転の状況



規模を拡大しつつ、在庫効率の維持・改善を目指す。

キャッシュフローの状況

(単位:百万円)

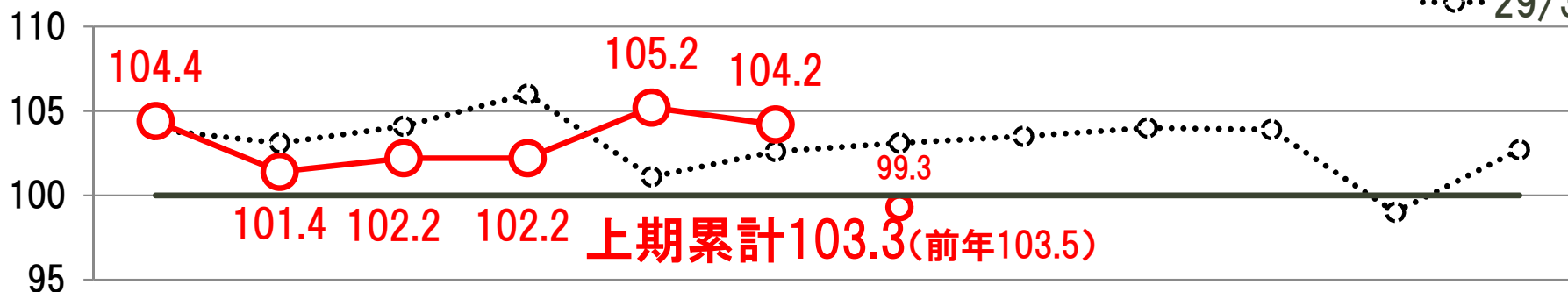
主要項目	前第2四半期累計期間	当第2四半期累計期間
営業キャッシュ・フロー	4,945	5,572
税引前四半期純利益	6,816	7,968
減価償却費	1,263	1,258
たな卸資産の増減額(増加:△)	△805	△884
仕入債務の増減額(減少:△)	△264	△489
法人税等の支払額	△2,331	△2,617
投資キャッシュ・フロー	△2,009	△2,027
有形固定資産の取得による支出	△1,646	△1,653
差入保証金の差入による支出	△464	△476
財務キャッシュ・フロー	△1,750	△1,947
借入・社債等(返済:△)	△253	△114
配当金の支払額	△1,137	△1,516
リース債務の返済による支出	△359	△315

投資CFの増加以上に営業CFが増加したため、投資余力は増加。

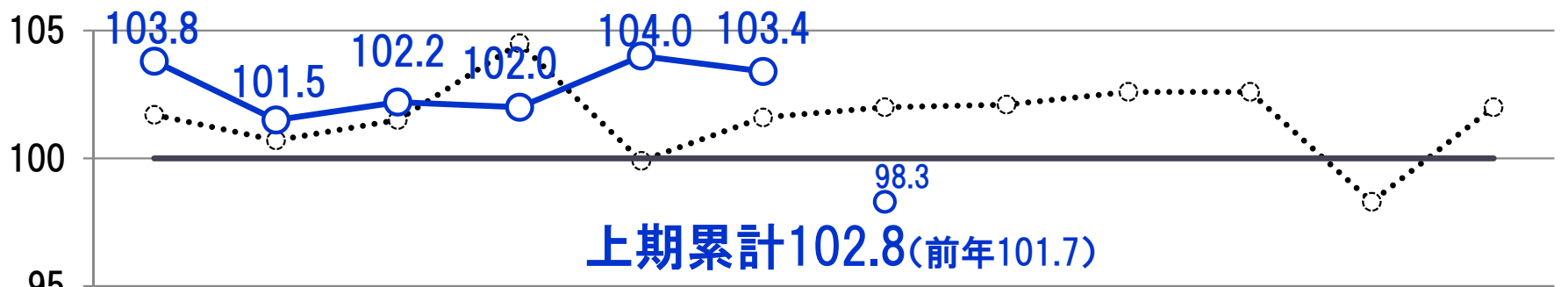
直営既存店前年同月比推移

29/3

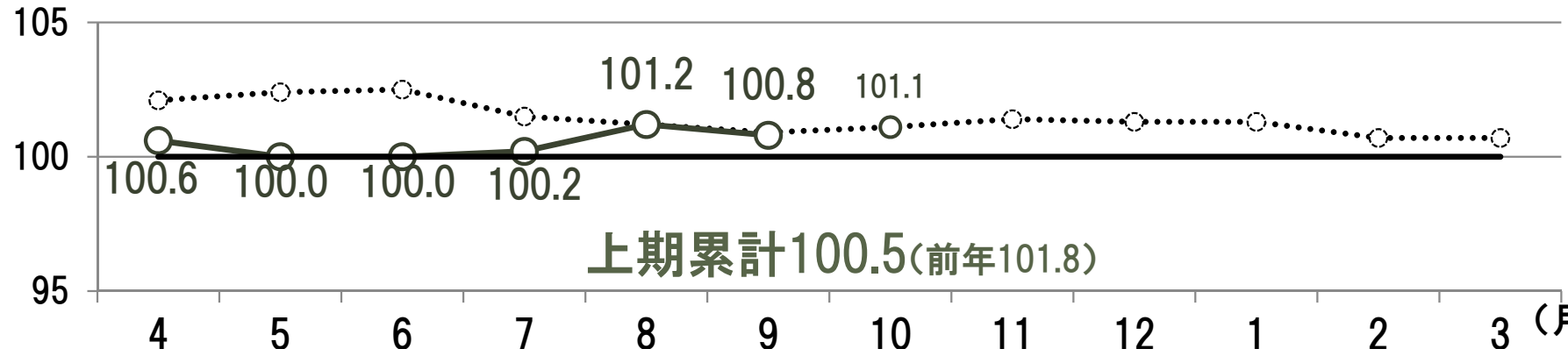
売上高



客数

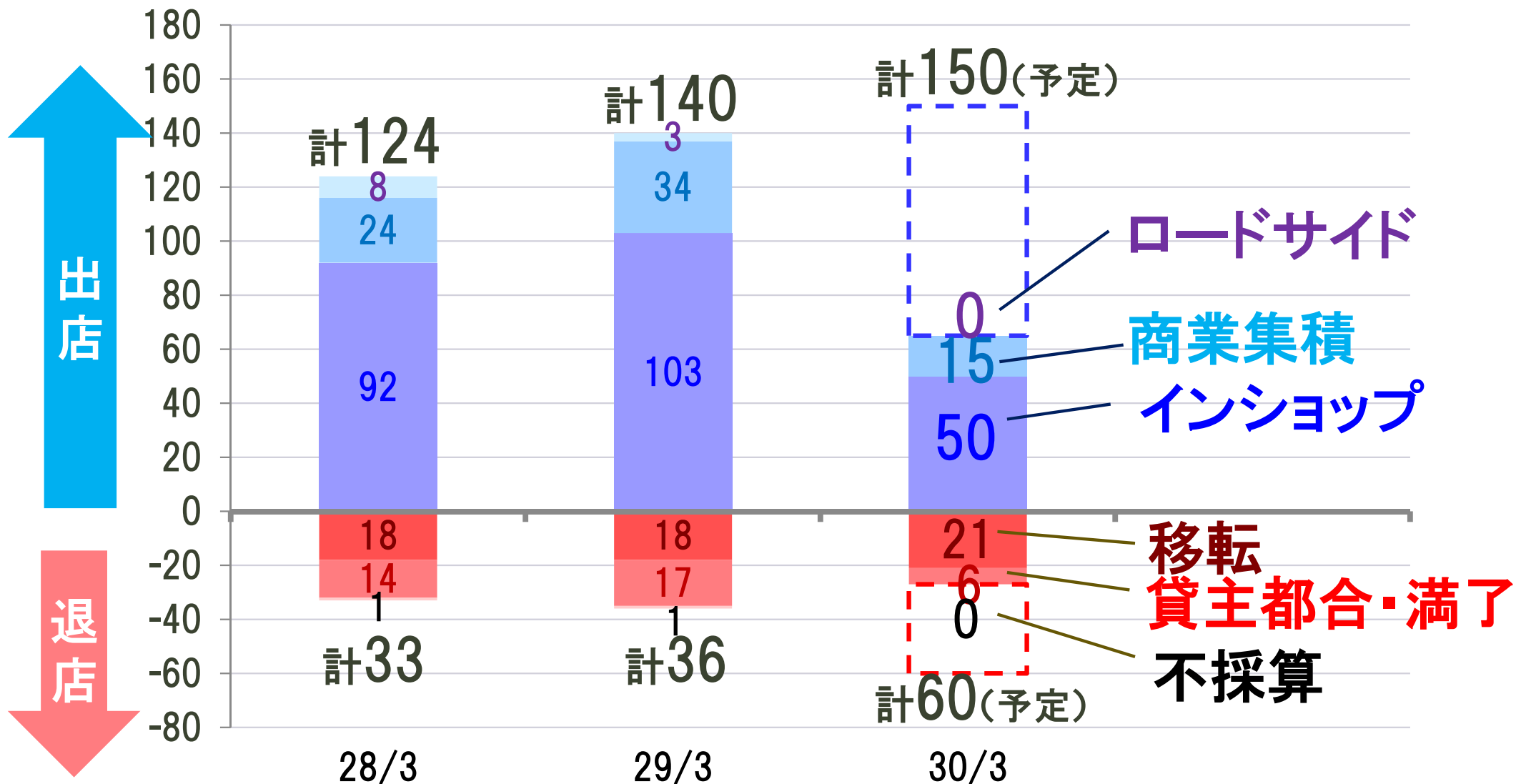


客単価



客数、お買い上げ点数、ともに増加し、想定を上回る。

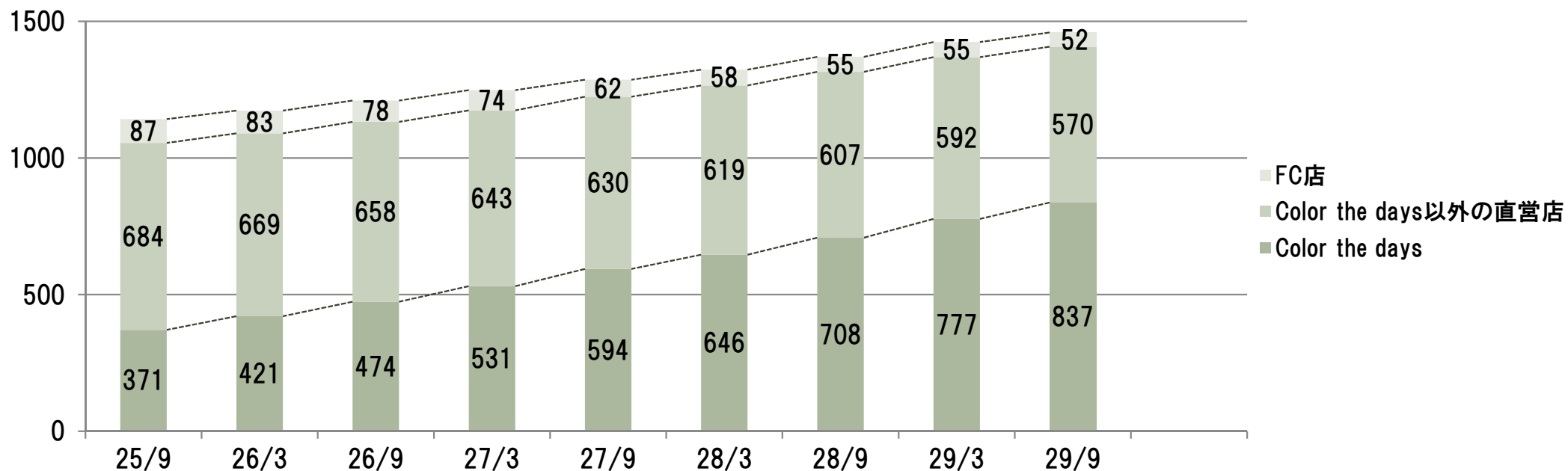
直営店出退店の状況



スクラップアンドビルド活発。通期退店数は45→60に修正。

店舗数推移

		29年3月期			30年3月期		
		上期	下期	年間	上期(実)	下期(予)	年間(予)
直営店(FC店)	出店	67 (0)	73 (0)	140 (0)	65 (0)	85 (1)	150 (1)
	退店	17 (3)	19 (0)	36 (3)	27 (3)	33 (3)	60 (6)
	増加数	50(Δ3)	54 (0)	104(Δ3)	38(Δ3)	52(Δ2)	90(Δ5)



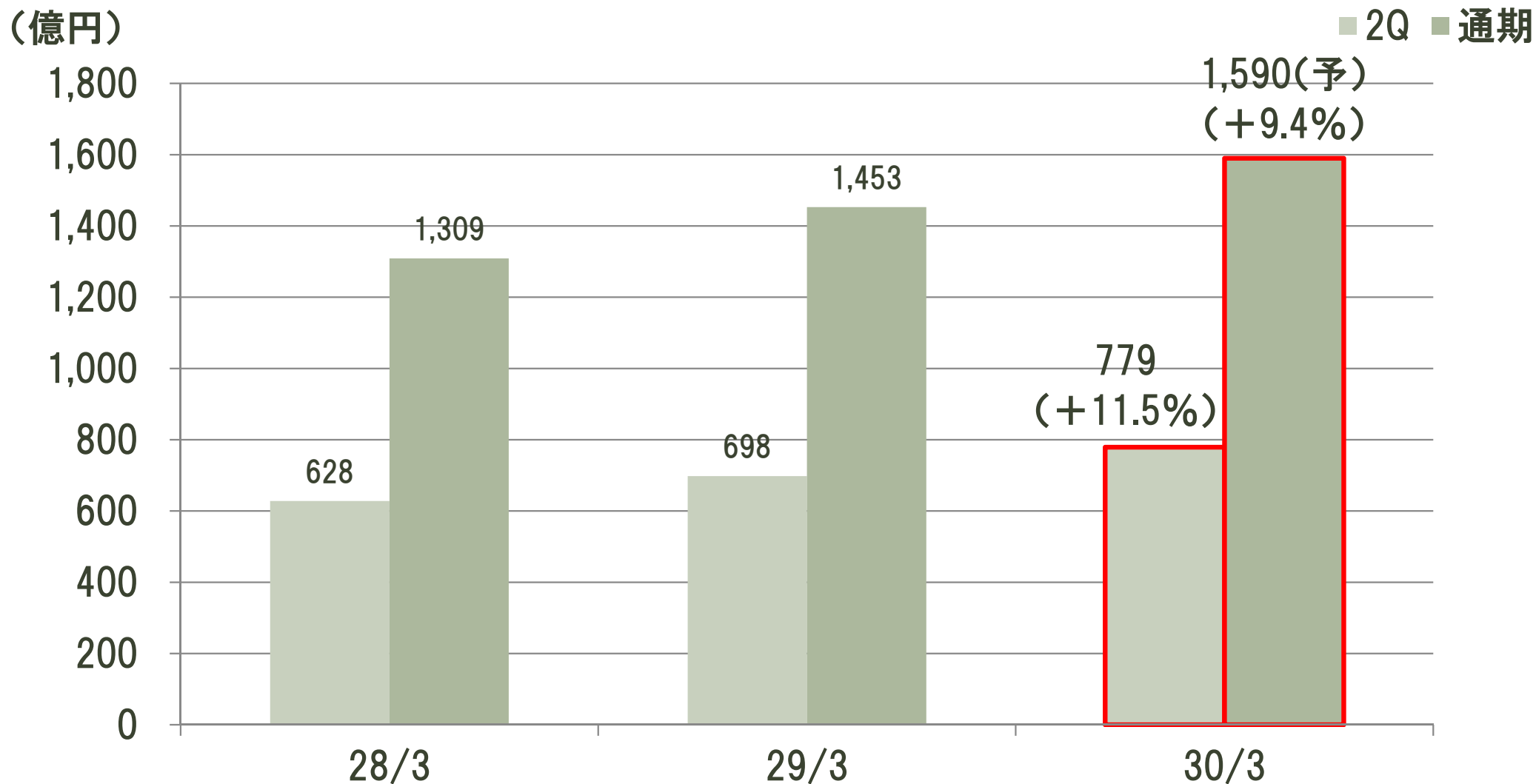
地域別店舗状況

直営・FC合計

	29年3月期上期			29年3月期下期			30年3月期上期			
	出店	退店	期末	出店	退店	期末	出店	退店	期末	売上 前年同期比
北海道東北	7	1	170	9	2	177	7	2	182	112.3
関東甲信越	20	5	372	25	3	394	23	9	408	115.8
東海北陸	17	6	359	13	6	366	9	8	367	106.7
関西	11	1	211	7	1	217	11	1	227	110.9
中国四国	7	1	91	10	1	100	6	2	104	117.1
九州沖縄	5	6	167	9	6	170	9	8	171	109.2
合計	67	20	1,370	73	19	1,424	65	30	1,459	111.8

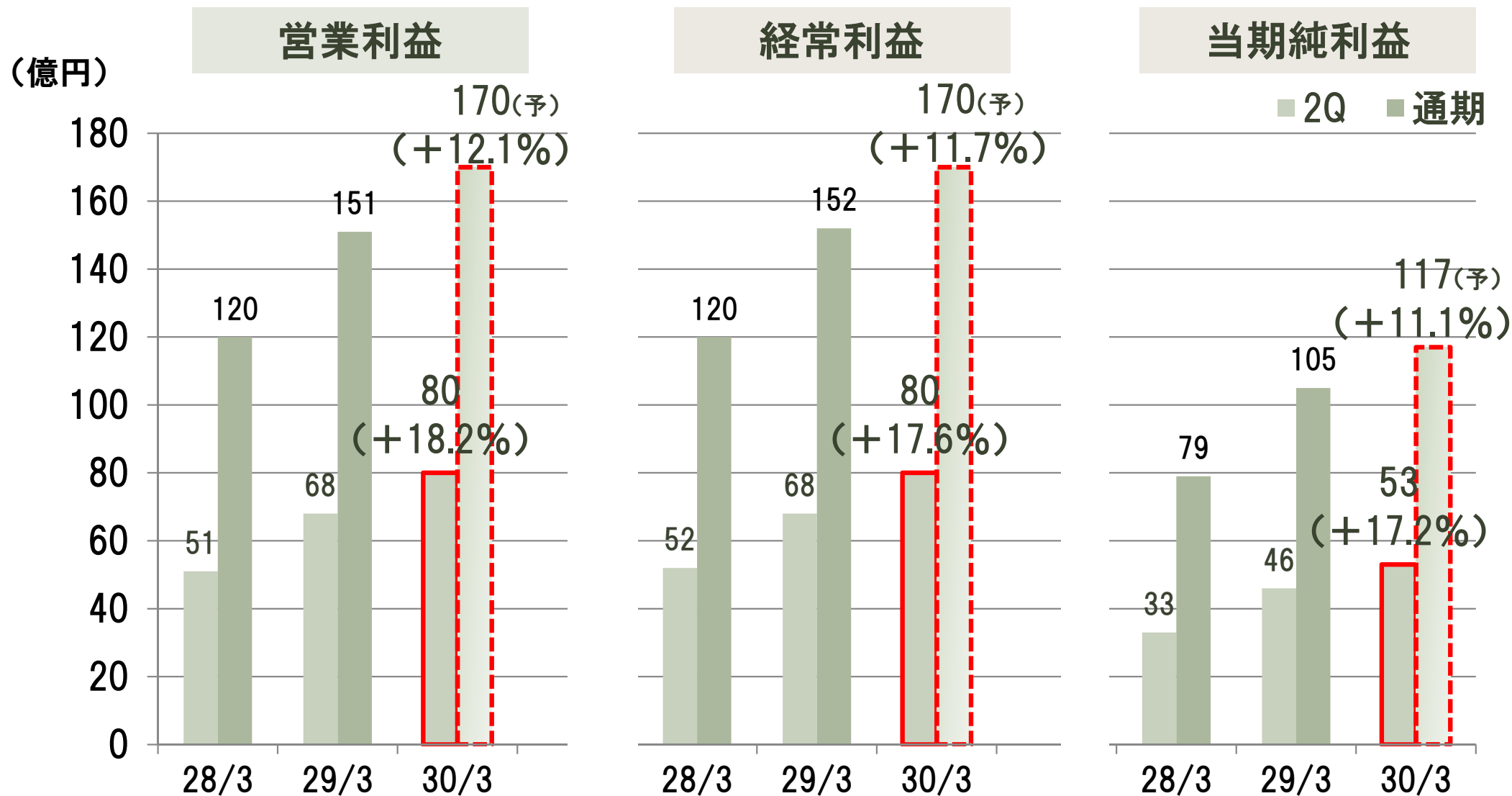
全国的にバランス良く増加。

売上高の推移および予想



通期計画売上を1,580→1,590億円に修正。

利益の推移および予想



営業利益、経常利益を166→170億円、当期純利益を115→117億円で修正。

30年3月期の業績予想

(単位:百万円)

	29年3月期実績			30年3月期		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	69,887	75,441	145,328	77,919	81,081	159,000
営業利益 (売上比)	6,819 (9.8%)	8,352 (11.1%)	15,171 (10.4%)	8,062 (10.3%)	8,938 (11.0%)	17,000 (10.7%)
経常利益 (売上比)	6,854 (9.8%)	8,364 (11.1%)	15,218 (10.5%)	8,058 (10.9%)	8,942 (11.0%)	17,000 (10.7%)
当期純利益 (売上比)	4,601 (6.6%)	5,932 (7.9%)	10,533 (7.2%)	5,394 (6.9%)	6,306 (7.8%)	11,700 (7.4%)

業績予想の前提

直営既存店前年比

下期100.3%(±0)

直営出退店

出店 150 (±0)

退店 60 (+15)

FC出退店

出店 1 (+1)

退店 6 (±0)

移転による退店増加を見込み直営退店計画を修正。

当社の取組み

■ 商品政策

- ・販売分析強化による確実性の高い新商品の導入
- ・商品の規格・スペック等のコントロール強化
- ・当社専売商品の拡充

■ 店舗政策

- ・多様な出店ニーズへの積極的対応
- ・持続的な出店拡大を見据えた店舗開発・運営基盤の強化

■ 業務効率化

- ・働きやすさと効率化の両立を継続的に実行
- ・物流オペレーション改革による効率性向上